



緑化建設協会だより

発行所 一般財団法人 石川県造園緑化建設協会 総務企画部会 発行責任者 北 総一郎

〒920-0376 金沢市福増町北 840 番 2 TEL 076-269-1110 FAX 076-269-1279



よろしくお願ひー

事務局 猿田 秀一

今年3月に石川県庁を退職し、4月から赤堀さんの後任として、事務局長となりました猿田と申します。よろしくお願ひいたします。

県庁在職中から協会の皆様には、工事や業務委託など多くの面でお世話になり、ありがとうございます。この誌面をお借りいたしました。御礼申し上げます。

前任の赤堀さんとは、石川県庁時代、木場潟公園や平成の森、いしかわ動物園、金沢城公園の整備と一緒に仕事をさせていただきました。

いしかわ動物園では、造成工事を開始した平成8年から開園までの4年間、そして金沢城公園では、全国都市緑化いしかわフェアが開催された平成13年の開園を目指しての工事現場をご指導いただきました。

一緒に仕事をすることで、赤堀さんの技術力、仕事に対するきめ細やかさなど多くの事を学ばせていただきました。

平成19年と記憶しておりますが、赤堀さんが県庁を退職して、石川県造園緑化建設協会に勤務すると聞きました。全く新しい分野で挑戦する赤堀さんに対して尊敬の念を抱いております。

それ以降、赤堀さんは11年間の長きに渡り、協会の常務理事兼事務局長として、協会の一般社団法人化など様々な面できめ細やかな運営をされ、また、日本造園協会北陸総支部の事務局長として北陸三県の連絡調整を図るなど、協会の皆様に頼りにされる存在となつていことが、着任以降、皆様の様子を見させていただき痛感しているところです。

私は、県庁時代はほとんどが前述のとおり、工事の監督など現場の担当でありました。

何も知らない若い頃、協会の親方に現場でいろんな事を教えていただき、自分の未熟さ、技術力のなさを痛感しながら、必死に現場で技術

を吸収しようとしていた時のことを思い出します。

良き先輩、同輩、後輩、協会の皆様、多くの方々のおかげで、県庁生活が無事に終えることができました。そして、この4月から、協会の事務局長として勤めさせていただくことになりました。

事務の引き継ぎを受け、赤堀さんが一般社団法人への移行の手続きなど協会の運営を実に細やかにされていたことに驚いております。

これまでと全く違った新しい環境の中、最初は戸惑いもありましたが、皆様方に暖かく迎えていただき感謝しております。

どれだけ、皆様方の力になれるかわかりませんが、どんなことでもお気軽にご相談してください。

できる限り、対応していきたいと考えておりますので、これからよろしくお願ひいたします。

金沢市長山野之義氏との懇談会の開催について

金沢支部は、平成30年3月27日に金沢東急ホテルで山野之義金沢市長と懇談会を開催し、市の緑化施策と協会間との連携のあり方などについて意見交換を行いました。

冒頭、岸会長の挨拶の後、山野市長から「金沢市平成30年度当初予算のあらまし」と題し、新年度の重点施策について予算全般や夜間の街なみの魅力向上、ゴミの有料化、宿泊施設の景観向上、今年5月にオープン予定の三谷さとやま交流広場についてなど多岐に渡り、今後の金沢市の方向性について説明がありました。



その中で市長はスポーツ推進計画について触れ、スポーツ文化都市を目指し、大会などを誘致する組織の設置や、観客が快適に観戦でき、競技者の能力も十分発揮できるように既存の競技施設の改修計画を述べられました。

また、卯辰山公園の開園100周年を記念して、新たな眺望スポットとして現在整備中の眺望の丘(仮称)を桜の名所として更なる魅力向上を図っていくほか、西部緑道整備ではトイレや防火水槽を備えた緑地として整備中との上で「緑の基本計画を

改定する中で、市民の意見を取り入れつつ、プロの業者の指導が必要」と協力の要請がありました。

その後、意見交換会が行われ、北陸新幹線の開業にともなう観光客増加を維持するための施策について、市長は「観光のための観光施策ではなく、金沢市民の普段の生活の魅力を向上させ、それを全国に発信させることによって金沢の素晴らしさを知っていただき、金沢に行ってみて」という気持ちになってもらうことによつて、更なる観光客の増加につなげたい」「伝統を守りながら新たなことに挑戦し、付加価値を付けて後世に渡したい」「大きな災害や戦火に会わずに残っている建築文化に彩りと価値を高めることが造園業者の仕事」と述べられました。また、予算の限られている中で、より美しい街路樹や公園の維持管理が文化都市として必要との意見に対して、市長は「どうすれば効率的な維持管理ができるか皆様とともに研究していきたい」と述べられました。

今回の市長との懇談会では、金沢市の実状や問題点と今後の計画・方向性について明確に説明され、我々の市政に対しての理解が大いに深まり、協会支部として市政に対してどのように貢献すべきか、金沢市活性化のために、何ができるかを考える良い機会を与えられました。

公共緑化の今後

株式会社 松村造園 松村 一慶

最近、知人の住宅で庭いじりをさせて貰える機会が少しずつ増えてきたのですが、そこで私が感じるのが、管理物件として抱えている住宅に対して、新築住宅における緑化スペースが縮小しているという事です。

今までであれば庭を造るようなスペースも駐車スペースになったり、砂利を敷かれたりと管理が容易な方向へと移行しています。私自身、県外において外構工事に携わっていましたが、樹木を扱うよりも生コンやアルミ製品を取り扱う機会が圧倒的に多かつた覚えがあります。

今後も居住スペースにおける緑化割合は減少傾向にあると思います。しかし、狭小だとしても緑化空間を必要としているという事は今も昔も変わらないと思います。そこで私たちの業界が大切にしなければならぬのが、公共の場にある緑化空間ではないかと考えます。

私たちが生活する中での公共に資する緑化空間は街路樹であり、公園であり、金沢城や兼六園といった空間が存在します。

集客力のある施設においては、管理がある程度行き届き、快適に過ごす事が出来ますが、街路樹や規模の小さい公園の様な場所では、積極的に管理が出来ているとは言い難い現状があると感じます。特に公園の様な児童が集うような場所については、より快適な緑化空間へ変えていく必要があると思います。

弊社で管理をさせて頂いている公園でも、遊具やベンチ等の老朽化や鬱蒼と生い茂る高木など改善の余地を感じるものがあります。年間管理として行う除草清掃や刈込は最低限の管理項目と考え、そこに何か地域住民の方々に還元出来るような管理が出来れば、より快適に公園を利用して頂けるのではないかと思います。現在、公共事業における造園業の占める割合は決して満足のいくものではないかもしれませんが、重要な要素であることに違いはなく、その重要性を内外に周知していくことがこれから大切になっていくのではないかと思います。

「珠洲道路の飾花活動について」

能登支部(支部長 正田信博)では、公益目的事業として、「植樹等による能登の里山再生活動」に取り組んでおります。

平成25年度から3か年にわたり能登空港内に、能登地方の代表的なノトキリシマツツジの植栽を実施、昨年度は宝達山水源森づくりに協力し、クヌギを市民とともに植樹しました。今年度から「珠洲道路の飾花」を2か年計画で実施することとし、今年度は、平成29年8月18日(金)に、珠洲市上戸町北方の珠洲道路に飾花されたプランター600個を設置し



ました。

8月18日(金)午後1時30分から、地元上戸町町内会から約10名、珠洲市役所職員約6名の参加協力をいただき、当協会支部会員15名とともに「サファイニア」の苗が植えられたプランター600個を珠洲市役所に近い一般国道249号線の北方跨線橋から上戸保育所附近の市道までの沿道約1kmの歩道部に設置しました。

珠洲市では9月3日から10月22日までの50日間「奥能登国際芸術祭2017」の開催が予定されていたので、この飾花が珠洲市を訪れる多くの人々の目を楽しませてくれるだろうと考えました。

サファイニアは、赤や黄色の一般的な色ではなく、芸術を意識して紫色としました。最初の頃は、暗い色で目立たないと言われましたが、満開を迎えると、わざわざ車を停めて

「きれいやねえ」と言ってくくださる方もあり、多くの皆様から感謝の言葉をいただきました。

また、奥能登国際芸術祭2017は大変な盛況で、期間中は多くの鑑賞者の方が市内に見られました。芸術祭実行委員会によると、推計の鑑賞者数は71,260人とのことで、本当に多くの皆様に、沿道を紫で満開に飾ったサファイニアを鑑賞いただけたものと思います。

今年度の事業を無事終了することが出来たのも、ひとえに関係各位の皆様のご支援ご協力の賜物と感謝申し上げます。誠に有難うございました。



名古屋港周辺・伊勢神宮 研修旅行

去る平成29年11月15日～16日の二日間の日程で、24名の参加者により研修旅行が行われました。当協会は近いうちに行われる金沢港周辺の改修工事の提案の参考にするために、ここ数年は各地の港湾を研修先にしていきます。昨年は名古屋港周辺の視察をメインに回ることになりました。全線バス移動にて名古屋市に入り、昼食をとった後、早速金城埠頭にて視察をしました。今回は日造協愛知県支部に依頼して、こちらで多くの工事を施工している株式会社中嶋造園土木の中嶋社長様と工事の現場代理人をされたお二方に案内をしていただくことになりました。

最初に驚いたのが「金城埠頭中央緑地整備工事(その2)」の請負金額が1億円以上だったことです。石川県では造園業者に発注される工事ではこの金額はまずないと聞きました。この金額には、植栽工、土工や園路整備などはもちろんですが、トイレの改修、給排水衛生設備、帆船休憩所設置工事なども含まれ、公園が丸ごと造園業者に発注されていました。専門外の事は全て下請けに任せると言う訳にもいかず、配管の設備や、日よけにする帆のテント生地を選定一つにしても大変ご苦労があったそうです。少し移動して、「ささしまライブ



24」という商業施設周辺と、隣接する中川運河緑地の視察をしました。こちらの「ささしまライブ24土地区画整理事業1号公園整備工事」(その1)と(その2)も中嶋造園土木様が受注され、二つの工区を合わせた請負金額は1億7000万円ほどです。こちらは芝や地被類の面積も多いのですが、擁壁の基盤整備や舗装工事、そして多くの証明器具とその電線管が900mもあったそうです。こちらも通常の造園知識だけでは到底施工することは出来ませんし、多くの下請け業者の協力が必要だと感じました。

初日は名古屋市の造園緑化工事のポリウムに圧倒された視察でした。大都市の公園緑化事業と比べることは出来ませんが、石川県でも造園業者が元請けになる工事が増えていくともういいです。二日目は伊勢神宮参拝です。何度か来られている会員も多いようですが、今回は案内ガイドを付けていただき、過去に石川の造園組合の方々が植栽した樹木の説明や、建物の方々が植栽した樹木の説明や、建物のちよつとした工夫や、橋の欄干にまでよく見ると細工がされていて、とても奥深く楽しく参拝することが出来ました。今回の視察でまた少し港湾緑化のヒントを勉強することが出来ました。金沢港の整備に石川県造園緑化建設協会としても良い提案をしたいと思えます。そしてこの場を借りて、半日の間、案内をしてくださった中嶋社長様と現場代理人さんに感謝申し上げます。